

水への感謝

長沼町立長沼中学校 三年 石田 明佳

小学生のとき、水泳を習っていました。プールの水には、感染予防のために水道水よりも多めの塩素を入れています。そのため、独特の臭いがします。この臭いは好きではありませんでした。水道水にもこの塩素が入っているのですが、長沼の水道水には、そんな臭いは無く美味しいので、いつもペットボトルの飲み物より水道水ばかり飲んでいました。

しかし、私が好きだった水道水が一変しました。昨年春、私は、町の中央から、町の端にある曾祖母の家に引っ越しをしました。いつも通りに水道水を飲みました。すると、今までとは違う強烈な味がしたのです。水道水とは思えないプールの水のような味でした。父から話を聞くと、この地域は、浄水場から近いため、水の塩素濃度が町の中央よりも高いのだそうです。この味に私はがっかりしてしまい、今までのように水道水を飲めなくなってしまいました。

これをきっかけに、水道のことを調べてみました。すると、世界では日本のように水道が通っている地域は、ごく僅かだということが分かりました。水道がないところでは、水を求めて何キロも歩いて水を汲みにいきます。その水は、雨水が溜まっただけの水たまりの水や、濁った川の水です。当然浄化されていないので、細菌が入っている汚染された水です。その水をそのまま飲むため、病気になって人が亡くなってしまうケースがかなりあるということです。それでも、遠くまで行って汲んできた一日十リットルほどの水を、生活していくために大切に使用しているのです。

一方日本では、ほとんどの場所で浄化された水道が通っています。山の麓の地域では、きれいな地下水を水源として、浄化することなくそのまま水道水として利用していることもあるのです。

ですが、日本ではこうして手軽に水が得られるため、つい贅沢に使ってしまうなど、水の無駄遣いが多いのです。日本人の一日に使う水の量は、約三百リットル。トイレや風呂、洗濯など、多くの水を使っています。水は無くならないからと、水のことに無関心でいる人が多いと思います。一方では、汚れた水を飲んでいる人たちがいるのが現実です。

これまで私も、水に対して何も考えることなく、当たり前のように水を使ってきました。世界の水の現状を考えると、引っ越し先の水を、ただ美味しくないので飲まないと言っている場合ではないことに気が付きました。塩素で殺菌した水道水も、日本の恵まれた水環境の一つだったのです。その水道の水は、飲んでも病気になる心配はないのです。美味しくないので飲まないという思いが、浄化された水への感謝へと変わっていきました。

私たちが使う水は、世界の水の約一パーセントほどしかないものなのです。それを日本を始め、先進国だけが技術を活かして、好きなだけ水を使っています。必要最低限すら水を使うことができない発展途上国では、本当に水を大切に使用しているのです。もし、私たちの無駄遣いを減らし、その分を発展途上国の人達に回せるなら、水の汚染問題はほとんど解決します。水は無限にはありません。いつ無くなるとも限らないのです。私たち日本人は、限りある水への意識を高めていかなければなりません。だからこそ、水を取り巻く現状を理解し、水の無駄遣いをやめ、節水や水を汚さないように気を配るべきなのです。

引っ越し先の水。塩素が入っているということは、殺菌されて飲める水になっているという証拠です。そのような水道が整備されている環境は、とても幸せなことなのです。このような水の環境に感謝して、大切に水を使い、ありがたく水を飲んでいこうと思います。